

第2章 まちづくりの目標

本計画の目標年次である平成24年（2012年）を展望した、本町がめざすべきまちづくりの目標を、「まちの将来像」「まちづくりの考え方」「将来人口」の3点から表します。

第1節 まちの将来像

本町がめざす将来像を表すキャッチフレーズとして、「まちの将来像」を次のとおり設定し、これを今後のまちづくりの目標とします。

将来像

「人、自然、科学を結ぶ
学研都市精華町」



「人、自然、科学を結ぶ
学研都市精華町」

人を大切にする
まちづくり

暮らしを支え、
活力を生み出す
まちづくり

人と自然との
豊かな関係を
めざすまちづくり

第2節 まちづくりの考え方

まちの将来像を実現していくための基本的な考え方として、「まちづくりの視点」を踏まえ、次のとおり設定します。

- ①人を大切にするまちづくり
- ②暮らしを支え、活力を生み出すまちづくり
- ③人と自然との豊かな関係をめざすまちづくり

以上の考え方に基づく具体的な施策の展開は、「まちづくりの基本方向」で表します。

第3節 将来人口

「将来人口」を次のとおり設定し、着実な人口定着と交流人口の増加による活力の発揮をめざします。

将来人口 38,000人(平成24年)

本町では、これまで学研都市建設をはじめとする都市化の動きの中で、定住人口の増加を推進してきました。しかし、わが国における総人口のピークが目前に迫っていることや、居住地の都心回帰志向が強まる中では、これまでのようなペースで人口の増加を望むことは難しい状況になっています。また、本計画の計画期間中では、新たな住宅や宅地の開発の見通しが不透明な状況にあることや、既存地域でも少子高齢化が進み人口が微減傾向にあって、将来的にもこのような傾向が続くものと予測されます。このため、将来にわたって、本町が活力のあるまちであり続けるためには、まちの発展に向けた着実かつ確実な各種の施策を推進していく必要があります。

従って、過大な将来人口を設定するので

はなく、現実的な見通しを持って、まちとしての成熟を図り、自然環境との共生、産業や雇用の創出による活性化で、人口の定着促進を考えたまちづくりを進めていきます。また、学研都市の国際的な特性を踏まえ、多くの外国人にとっても、便利で安心して暮らせるまちづくりをめざします。

このような見通しと考え方に立って、目標年次（平成24年）の将来人口を38,000人と設定し、着実な人口定着を図り、活力のあるまちづくりをめざします。

さらに、まちのにぎわいと活力を高めるために、本町全域が学研都市であることを最大限に活用して、交流人口の増加を図っていきます。具体的には、地域住民が地域に対し誇りと愛着を持つことにより、住みたい、住んでよかったといえるまちをめざしていくことで、研究開発で長期滞在する研究者や学生、国立国会図書館関西館や私のしごと館などの集客施設への来訪者、観光農園や本町固有の歴史・文化などに関心を持つ人びとなどに対して、多くの人が精華町のファンとなってもらえるようにします。

